

2015.3.8.

町田三田会囲碁同好会見学の記

氣賀康夫

町田三田会の東野至さんのお手引きで、このたび3月7日に町田三田会囲碁同好会を見学することができました。そのご報告を申し上げます。

会は町田駅に近い内藤ビルの三階にある日本棋院町田支部を会場に行われています。町田支部は思ったより面積が広く、土曜日の午後ということもあり、かなり賑わっていました。見回すと、顧客のほとんどが年配の男性であり、女性、若者、子供の姿はあまり見られません。これが最近の日本囲碁界の縮図かと感じました。入場料が500円で、お茶のサービスもちゃんと茶碗にお茶を入れて出していただき、とてもいい碁会所です。

碁会は1時開始で5時までの予定で、それからは親睦会になるのが恒例だそうです。同好会は会長に富田健先生(原町田医院院長)をいただいています。先生はお祖父様の代から三代にわたり町田で地域の医療に貢献しておられる地元の名士です。医学部では桑原先生のお名前は聞きだそうですが、作田先生が同期だと判明しました。作田先生は慶応囲碁部で正田さんと同時代の打ち手として知られています。この日、先生は仕事を終えて駆けつけてくださり、いろいろ会のお話をお聞きすることができました。

ユニークなのは町田の同好会の場合、有段者と級位者と二つの会を別々に開催しているという点です。前者は第三土曜、後者は第一土曜が例会日であり、年に何回か合同の集まりも持たれるとのこと。会員は各々に10名以上顔ぶれが登録されているようですが、会の参加者はだいたい10名前後であり、この日は9名のご参加でした。対局風景を写真でご覧いただきましょう。



町田三田会会員同士の対局風景

会員はどちらに顔を出してもいいというゆるやかな運営ですが、だいたい自分の実力を考えて片方だけに参加しています。ただし、先生だけはお立場上両方の会に顔を出すようにしているのだそうです。

この日は、まだ碁を始めて二三か月という平本百合子さんがおられ、乞われて囲碁の基本的なこと

をご説明して、碁の楽しさをご理解いただくようにしました。その勉強風景もご覧いただきましょう。「シチョウ」「ウツェ返し」というような言葉はご存知でしたが、窒息する自殺手は禁手だというご理解が行き過ぎていて「相手の石を取れる場合でも自殺手は打ってはいけない」と誤解しておられました。そう誤解すると、ウツェ返しするとき石を取りあげる着手が打てなくなります。

「相手の石が取れるときは自殺手が許される」ということを最初にお教えしなければいけないと思いました。それから日本ルールで碁を打つときに一番大切な「終局時には『究極的に生きられない石』は周りを囲む手を省略してハマにしてよい。

という概念をマスターしないといけないので、それをよくご説明しました。この説明は日本棋院の教材ですら

軽視されていますが、この概念は日本ルールの基本であり、入門者にルールを説明するときの難関です。この日は「直四活き、直三は生死の分岐点、直二は死に」という中手に関する説明までもが必要になりました。

なお、同好会では初心者に十三路盤を用意していました。これはいいことです。この日、十三路盤九子局は卒業、これからは十三路盤七路盤でしばらくご稽古することをお勧めしました。



平本さんの勉強風景

そのあと、時間があつたので富田会長と一局お手合わせしました。四段とおっしゃるので互先でお相手させていただきましたが、一手一手を大切にされる本格的な碁でした。だんだん周囲の会員が手を休めて観戦しておられるのに気づいたので、あまりみっともない手は打てないと慎重に打ち進めました。勝負に言及するのは野暮というのですが、最後まで先生も観戦者もお楽しみになられたご様子でほっとしました。

5時ごろから町田の駅近くの魚料理店に席を移し、懇親会を始めました。平本さんは家事のため帰宅されましたが、男性8人が参加し、楽しい囲碁談義の会となり、ゲストとして大歓迎を受けました。先生がご丁寧な歓迎のご挨拶をなさり恐縮しました。乾杯のあと、少し時間を頂戴して、山下会長のご挨拶を伝え、囲碁三田会の沿革、最近の活動をご説明させていただきました。特に級位者が

多かったので、どんぐり会の宣伝をしました。また、春の囲碁フェスタ、年末のオール早慶三田会やインターネット対局についてもご説明し、会費は終身会費制で3000円と説明し、有志の方はご参加されるように勧誘をしました。

町田市は地理的に横浜市、川崎市、八王子市と接しているのですが、何と云っての近いのは相模原市であり、相模原三田会とは交流があるとのこと。相模原には強い打ち手がいるとの情報でした。また、ときどき稲門会の方々との交流もあるそうです。町田の皆様とご一緒させていただき、たいへん雰囲気の良い、心の温まる会であり、とても暖かい歓迎を受け、「やはり塾員の囲碁仲間は素晴らしい！

のひとことでした。懇親の席の写真をお目にかけます。



左端 富田会長

希望があれば、囲碁三田会が町田三田会の応援をすることはいいことだと思いますが、あまり我々側がはりきりすぎて、町田の会に余計な干渉をすることがないように注意しなければならないと感じました。将来の町田三田会、囲碁同好会のさらなる発展をお祈りしたいと考えます。